

# 歴史（戸越銀座）

「戸越銀座」は大正の後半に、発展著しい工業地帯の大崎周辺があったこと、また、昭和2年に「戸越銀座駅」が開業したことにより、駅を中心に商店が集まったのが始まりといわれています。

そして、戸越銀座は数ある「〇〇銀座」の中で**元祖**とされています。

戸越には現在も名前が残る「宮前坂」「八幡坂」「平和坂」など坂が多く、坂を下ったところにある土地柄から、水はけが悪く、ぬかるみや浸水に悩まされ続けていました。

大正12年の関東大震災で**本家銀座のレンガ造りの町並み**が壊滅的な被害を受けました。商店の人々は、銀座のレンガを貰い受けリヤカーで運び道路に敷き詰めたそうです。

「レンガ」と日本一の繁華街の「銀座」が「戸越銀座」の源となりました。

では何故「戸越」かという、ここが江戸越えの村だったことに由来するといわれています。この江戸越えが「戸越」になり、戸越の名の起こりといわれている古歌を刻んだ石碑が戸越八幡神社にあります。また、この辺は坂が多いことも分かるように、小さな山あり谷ありの斜面の地形で「谷戸」と呼ばれ、「ヤトを超えた土地」という意味が有力であるともいわれています。

戸越銀座は全長約1.3kmで全国有数の長さの商店街で、店舗数300以上あり、電線類も地中化されるなど、今や「十条銀座商店街」「砂町銀座商店街」とともに、**都の三大銀座商店街**と呼ばれています。

今年(令和2年)の「新型コロナウイルス」の緊急事態宣言の時には、連日のように戸越銀座の人出の様子がマスコミに取り上げられました。最後の写真はその時の様子です。

